

【「水の怖さと大切さ」】

福岡県 筑陽学園中学校

二年 酒井 愛美

私は福岡県久留米市で生まれ育ちました。ニュースで久留米市の水害の被害の大きさを知り、水についてもっと知りたいと思ったことが、このテーマに興味を持ったきっかけです。

私たちの生活の中で、水はとても大切なものです。毎日、当たり前のように水を使っていますが、その有難さについて深く考えることはあまりありません。しかし、久留米市で起きた水害のことを知り、水にはこわい一面もあることを知りました。

令和二年七月、九州ではとても強い雨が長い時間降り続けました。この大雨によって、久留米市ではたくさんの方が水に浸かってしまいました。家の中まで水が入り、生活が出来なくなった人も多くいたそうです。道路も水であふれ、車が通れなくなったり、人が避難することが難しくなったりしました。当時は、幸いにも自宅付近の道路の冠水はありましたが、自宅や家族には大きな被害がありませんでした。

このときの水害は、川があふれたことだけが原因ではありませんでした。たくさん雨が一気に降ったことで、排水が間に合わず、町の中に水が溜まってしまふ「内水氾濫」という現象が起きました。私は、水害というと川の水があふれることだと思っていたので、町の中でも水害が起きると知ってとても驚きました。

のちに、私は強い雨が降った日に、不安な気持ちになることがあります。夜に大きな雨音がして、このままずっと降り続いたら、以前よりも大きな水害が起きるのではないかと心配になりました。私は雨が降るたびに水の怖さを思い返すようになりました。

また、この水害では家だけでなく、畑や田んぼも大きな被害を受けました。久留米市は農業もさかんな地域なので、農作物がだめになってしまったことは、とても大きな問題だったと思います。水は作物を育てる大切なものなの

に、多すぎると逆に大きな被害をもたらしてしまうのだと感じました。

私はこのことから、水には「役に立つ面」と「怖い面」の両方があると思いました。普段の生活では、水はとても便利でなくてはならないものです。しかし、使い方や量によっては、私たちの生活を壊してしまうこともあるのです。

では、私たちはどうすればよいのでしょうか。まず大切なのは、水害を自分に関係のあることとして考えることだと思います。自分が住んでいる久留米市でも実際に起きたことだからこそ、しっかりと考えなければいけないと思います。ハザードマップを見たり、避難場所を家族で確認したりすることが大切だと思います。

また、大雨が降るときには、早めに行動することも大切です。「まだ大丈夫」と思っていると、気がついたときには動けなくなってしまうかもしれません。自分の命を守るためには、少し早すぎるくらいの行動がちょうどいいのだと思いました。

さらに、普段から水を大切に使うことも必要だと思います。水は限りある資源であり、自然の一部でもあります。無駄遣いをせず、大切に使うことで、水と上手につき合っていくことができるのではないのでしょうか。

これからは、地球温暖化の影響で、今までも強い雨が降ることが増えると言われています。つまり、水害はこれからもっと身近な問題になるかもしれません。だからこそ、今のうちからしっかりと考えておくことが大切だと思います。

私は、久留米市で生まれ育った一人として、水の怖さと大切さを忘れずに生活していきたいです。そして、水を大切にしながら、いざというときには自分や家族の命を守るように行動できる人になりたいと思います。